**本時について**

（１）本時の目標

・自己の課題に応じた守備の技能ポイントや練習方法がわかり，打球に応じて動き、ねらった方向へ　　ステップを踏みながら一連の動きで送球することができる。（知識及び技能）

・自己やチームに適した課題を見つけ、それに応じた練習方法を選び、状況に応じてどこでアウトを取るのかを判断し、伝えたり確認したりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

・捕球から送球までをスムーズに行うために互いに見合ったり、練習の補助をしたりして、グループの仲間が互いに上達する教え合いができる。（学びに向かう力・人間性等）

（２）展開（本時８／１２時）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 指導・援助・評価 |
| 導入 | １　用具の準備・準備体操・補助運動・グループごとに準備、準備体操をする。

|  |
| --- |
| 【補助運動】キャッチボール→ゴロ捕球→フライ捕球→２分間キャッチボール |

２【全体計画会】・本時の課題、技術ポイント、練習方法がわかる。【課題】次の動きを確認し、捕球から送球までをスムーズに行いアウトを取ろう３【グループ計画会】・個人課題を守備段階表をもとにグループで共有する。・今日のケース練習について確認する。 |

|  |
| --- |
| **研究内容（１）**②導入で個人課題を見出させる手立て・学習カードを活用し前時の振り返りから個人課題を明らかにできているか。 |

・課題達成のための技術ポイントと練習　方法を確認する。・前時の振り返りから、適切な個人課題を設定できているか確認する。**研究内容（３）**②どの子にも満足のいく１時間とするための計画会、中間研究会、反省会・計画会（中間研究会）で本時の課題、個人課題を達成させるための技術ポイントが合っているか。・ケース練習での動きが理解できているか確認する。**研究内容（２）**②練習方法・グループ練習と抽出生徒の練習を使い分け、生徒の課題や姿に応じた練習方法や練習回数を考えているか。**研究内容（３）**①仲間への関わり・守備段階表から技術ポイントや練習の視点を理解し、仲間に的確な声かけやアドバイスができているか。・生徒の姿と練習方法が合っているか確認する。・苦手な生徒がグループの中で上手く練習できていないときは、どこでアウトにするのかを一緒に考えたり、捕球の仕方を確認したりする。**【評価規準】**練習や仲間のアドバイスを通して、自分なりのコツや技術ポイントを見つけようとしている。（思考・判断） |
| 展開 | ４　【前半練習】守備のケース練習〇グループごとに状況を設定し練習する。・どこでアウトを取るかを常に確認し練習を進める。・内野の守備練習のみ・ノック、または投げ入れで行う・それぞれの動きと技能課題を確認しながら行う。例）１アウト１塁の時、どう守るか　　２アウト１、２塁の時、どう守るか・どこに送球するのか、どう動くのかを声をかけ合い練習する。５　【後半練習】変則ルールゲーム、判定会○変則ルールゲーム・打者一巡で攻守交替　・ピッチャーは味方が行う。・得点は　守備時のアウトカウントを得点とする。・どのチームもゲームができるように３ゲーム行う例）①攻：１　守：２　②攻：２　守：３　③攻：３　守：１○チーム練習会・ゲームをしていないチームは練習方法を選択して守備練習を行う。・打球の捕球から送球までを段階表を用いて点数化する |
| 終末 | ６　【グループ反省会】・仲間の高まり、高まった要因を話す。次時の個人課題やチーム課題の設定７　【全体反省会】・本時の課題（めざす姿）に根拠（技術ポイント、練習方法等）をつけて自分や仲間、チームの高まりを話す。 |

|  |
| --- |
| 【評価規準】（技能）・打球に応じた動きで捕球し、ステップを踏みながらスムーズにねらった方向に送球することができる。 |

 |